20230905-28

藁寄せ・藁仕舞い

9月に入って早々に稲刈りが始まった。夏場の作物の敷き藁にするために、今年も農家のKさんにご無理をお願いして、藁をいただくことになった。昨今の稲刈りはコンバインと言う機械が入って、刈り取りから脱穀・藁の処理まで一台でやってしまう。稲わらは刻んで田に播いてしまうので、これでは藁がとれない。そのために別の仕様での刈り取り作業になる。
一把（いちわ）は片手で握って稲を刈る時の一握りの単位、一束（いっそく）は3～5把を束ねた単位を言うのが、私の子供の頃の記憶である。
藁寄せ・藁仕舞いは、脱穀後の稲藁を集め、3～5把を束ねて 1 束の稲束にする。そして乾燥させて、納屋などに収納する作業である。
今日は南田原と佐保姫両グループが、一緒に藁寄せ・藁仕舞いをしました。相変わらずの暑い日が続いています。

●

●

●

●

●

●稲藁の乾燥風景（原地区）

●

●稲束の乾燥風景（北野地区）

（by 福岡利昭）